



独立行政法人
大学改革支援・学位授与機構
National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

機構ニュース

Vol.250 2024 April

今月の記事

Top News

- 機構長就任挨拶1

評価事業

- 大学機関別認証評価等について
- 令和5年度実施大学機関別認証評価の評価結果について3
- 高等専門学校機関別認証評価について
- 令和5年度実施高等専門学校機関別認証評価の評価結果について3
- 法科大学院認証評価について
- 令和5年度実施法科大学院認証評価の評価結果について4
- 令和5年度実施法科大学院認証評価（本評価）の評価結果について4
- 令和5年度実施法科大学院認証評価（追評価）の評価結果について4
- 国立大学法人等の教育研究評価について
- 国立大学法人等評価実務担当者説明会の開催（東京・大阪）5

質保証連携

- 労働政策フォーラム／大学等の質保証人材育成セミナー「キャリア形成に寄与する学び直し・リカレント教育」を開催6

学位授与事業

- 20人に博士の学位を授与
—大学院博士課程相当の課程修了者—7
- 991人に学士の学位を授与
—学部相当の課程修了者—8
- 18人に修士の学位を授与
—大学院修士課程相当の課程修了見込者—9
- 3人に博士の学位を授与
—大学院博士課程相当の課程修了見込者—9

調査研究

- 研究開発部教員紹介10

主要行事日程

- Schedule（4月～6月）12

Top News

○ 機構長就任挨拶

4月1日に福田秀樹前機構長の後任として、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の機構長に就任しました。仰せつかった大役に身が引き締まる思いです。微力ではありますが、機構の教職員と一緒に、様々な支援を通じて高等教育機関における活動の一層の質向上が図れますように精一杯努めて参ります。よろしくお願いいたします。

機構長就任に伴い、島根県から東京に転居してきまして半月が過ぎ、生活もようやく落ち着いてきたところです。60歳代後半になってからの、そして、初めての東京での生活に不安と期待が半々といった心境です。



紙面を借りまして、自己紹介させていただきます。出身は長野県で大学進学を機に県外に出ました。まさに高校卒業時の地方からの転出であり、このことは人口減少の大きな要因の一つですので、今では地元に対して申し訳なく思っています。高校時代の思い出はサッカーしかない、というくらいサッカーにのめりこんでいましたが、大学進学後は体育系の部活ではなく、同好会で週2日間ほど楽しんでいました。さて、研究の専門分野は数学のトポロジーといわれる分野です。トポロジー (topology) は位相幾何学とも訳されますが、私の研究領域としては幾何学というより、むしろ集合論との関連が強く、集合論的位相数学と呼ばれる分野を研究してきました。前職は島根大学で平成5年に当時の理学部数学科に助教授として着任して以来31年間在籍しました。今年の3月までの直近十数年間は学部長・研究科長や学長など、管理運営の業務が主になり、教育・研究からは遠ざかってしまいました。学長になった年は、国立大学法人の第2期中期目標期間の最終年度で、それから第3期、そして、第4期の2年間と、国立大学の機能強化が推進されてきた期間に大学運営・経営にあたってきました。また、地方における人口減少、少子高齢化の課題等が顕在化してきた時期でもあります。島根県はこれらの課題の先進県でもあり、卒業生の県内定着や産学官連携による地域産業の振興等、学内の教育・研究の向上のみでなく、学外、特に地域における大学として求められている役割を果たすべく、地元自治体等と地方創生に対する共通認識を持って、様々に取り組んでまいりました。

さて、私にとって昨年度までの機構との関わりといえば、自学の活動等に対する評価における関係が主でした。実際、島根大学は法人評価の他に、機構による機関別認証評価を3回受審し、直近では令和4年度に受審しました。結果として「大学評価基準を構成する27の基準をすべて満たしている。」との評価を頂きましたが、自己評価書に関する機構からの指摘や質疑等を通じて、教育マネジメントを含めた教育体制や実施状況において不十分な事項を再認識することができました。結果として、全学的な教育の質の向上が図られました。他者の視点を通じて改めて点検することにより、新たな気づきがあることが外部評価の重要な点と思います。評価を実施する母体として、大学や高専の皆様の自らの気づきと、さら

なる教育の質向上の一助になる取組を継続していきたいと考えています。

機構長に就任して半月が過ぎました。今、機構の取り組みや業務内容等について担当者から説明を受けながら勉強しているところです。その中で、機構が(1)大学や高専に対する評価事業(機関別認証評価、法科大学院認証評価及び、国立大学等の教育研究の状況評価)、(2)国立大学等への施設費貸付・交付事業、(3)学位授与事業、(4)大学等との連携・活動支援や教育資格の国際通用性等に係る質保証連携、(5)上述の活動を支える調査研究、(6)大学・高専における成長分野への転換支援事業など、どれも高等教育の質の向上に不可欠で重要な支援を、限られたスタッフで実施していることに驚いています。まさしく我が国の高等教育、そして、社会の発展に寄与する使命を果たすための取り組みがなされていることを実感すると共に、果たすべき責任の重さに気持ちも新たにしています。重ねてではありますが、各高等教育機関を始め社会からの信頼に応える評価を実施すると共に、意欲的に教育の質向上を目指している各高等教育機関に対する支援がしっかり提供できますように、スタッフと共に精一杯努めて参ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

機構長 服部 泰直

評価事業

■大学機関別認証評価等について

○ 令和5年度実施大学機関別認証評価の評価結果について

当機構では、令和5年度に実施した大学機関別認証評価の評価結果を評価報告書として取りまとめ、当該大学及びその設置者へ通知するとともに、文部科学大臣に報告しました。

今回、認証評価を実施した全ての大学が、大学設置基準をはじめ関係法令に適合し、当機構の定める大学評価基準に適合しているとの評価結果となりました。

なお、対象大学ごとの評価結果については、全体を通じての概要等を加え「[令和5年度に機構が実施した大学機関別認証評価の評価結果について](#)」として当機構のウェブサイトに掲載するなど、広く社会に公表しています。

<対象大学>

【国立大学】

- ・ 埼玉大学
- ・ お茶の水女子大学
- ・ 広島大学
- ・ 琉球大学

■高等専門学校機関別認証評価について

○ 令和5年度実施高等専門学校機関別認証評価の評価結果について

当機構では、令和5年度に実施した高等専門学校機関別認証評価の評価結果を評価報告書として取りまとめ、当該高等専門学校及びその設置者へ通知するとともに、文部科学大臣に報告しました。

今回、認証評価を実施した全ての高等専門学校が、当機構の定める高等専門学校機関別認証評価基準に適合しているとの評価結果となりました。

なお、対象高等専門学校ごとの評価結果については、全体を通じての概要等を加え「[令和5年度高等専門学校機関別認証評価実施結果報告](#)」として当機構のウェブサイトに掲載するなど、広く社会に公表しています。

<対象高等専門学校>

【国立高等専門学校】

- ・ 仙台高等専門学校
- ・ 香川高等専門学校
- ・ 熊本高等専門学校

■法科大学院認証評価について

○ 令和5年度実施法科大学院認証評価の評価結果について

当機構では、令和5年度に実施した法科大学院認証評価（本評価・追評価）の評価結果を評価報告書として取りまとめ、当該法科大学院を置く大学及びその設置者へ通知するとともに、文部科学大臣に報告しました。

なお、対象法科大学院の評価結果（本評価・追評価）については、全体を通じての概要等を加え「[令和5年度に機構が実施した法科大学院認証評価評価結果について](#)」として当機構のウェブサイトに掲載するなど、広く社会に公表しています。

○ 令和5年度実施法科大学院認証評価（本評価）の評価結果について

今回、認証評価（本評価）を実施した全ての法科大学院が評価基準に適合しているとの評価結果となりました。

<対象法科大学院>

【国立大学】

- ・東北大学大学院法学研究科綜合法制専攻
- ・東京大学大学院法学政治学研究科法曹養成専攻
- ・名古屋大学大学院法学研究科実務法曹養成専攻
- ・京都大学大学院法学研究科法曹養成専攻
- ・大阪大学大学院高等司法研究科法務専攻
- ・神戸大学大学院法学研究科実務法律専攻
- ・広島大学大学院人間社会科学研究科実務法学専攻
- ・九州大学大学院法務学府実務法学専攻

【公立大学】

- ・東京都立大学大学院法学政治学研究科法曹養成専攻
- ・大阪市立大学大学院法学研究科法曹養成専攻

【私立大学】

- ・学習院大学大学院法務研究科法務専攻

○ 令和5年度実施法科大学院認証評価（追評価）の評価結果について

今回、令和4年度に実施した法科大学院認証評価（本評価）において適合認定を受けられなかった1法科大学院の認証評価（追評価）を実施した結果、先の評価結果と併せて、評価基準に適合しているとの評価結果となりました。

<対象法科大学院>

【私立大学】

- ・上智大学大学院法学研究科法曹養成専攻

■国立大学法人等の教育研究評価について

○ 国立大学法人等評価実務担当者説明会の開催（東京・大阪）

当機構が実施する第4期中期目標期間の教育研究の状況の評価について、国立大学法人及び大学共同利用機関法人の評価実務担当者に説明を行うことにより、円滑な実施に資することを目的とした「国立大学法人等評価実務担当者説明会」をウェブ会議を併用したハイブリッド形式で、以下のとおり開催しました。

東京会場 学術総合センター2階 中会議場
令和6年3月1日（金）13：30～15：30

大阪会場 梅田スカイビル タワーイースト36階
スカイルーム1
令和6年3月8日（金）13：30～15：30



開会挨拶をする福田機構長
（東京会場）

当日は、両会場あわせて86法人及び関係機関から参加がありました（70名の会場参加及び多数のオンライン参加）。福田機構長から挨拶の後、光田研究開発部教授より、第4期中期目標期間の教育研究評価の実施について、その基本方針、実施体制、プロセス、方法等をまとめた「評価実施要項」等の内容に基づいて説明がありました。また、山内国立大学評価室長より、今後の予定等について説明がありました。

説明後の質疑応答では、参加者より率直な意見や質問が寄せられました。



説明をする光田研究開発部教授（右）と
山内国立大学評価室長
（大阪会場）



質疑応答の様子
（東京会場）

※上記説明会の配付資料は、当機構の[ウェブサイト](#)に掲載しています。

※記事中の役職名は説明会当時のものです。

質保証連携

○ 労働政策フォーラム／大学等の質保証人材育成セミナー「キャリア形成に寄与する学び直し・リカレント教育」を開催

令和6年3月16日（土）～19日（火）に、独立行政法人労働政策研究・研修機構（JILPT）との共催で、労働政策フォーラム／大学等の質保証人材育成セミナーを開催しました。

第1部の研究報告はオンデマンド配信を行い、JILPT統括研究員の堀氏による趣旨説明の後、同研究員森山氏より「AIと共に働くための学び直しとは?」、中小企業庁総務課長の宮本氏より「産業人材ニーズと大学教育内容の関係の見える化の試み」というテーマでそれぞれご報告をいただきました。

3月19日（火）にライブ配信された第2部では、前半に事例紹介として高齢・障害・求職者雇用支援機構（JEED）職業訓練課課長補佐の寺床氏、東京理科大学経営企画部次長の小原氏、愛媛大学大学院農学研究科長／地域専門人材育成・リカレント教育支援センター長の治多氏より、各機関の取り組みについてご紹介いただきました。後半のパネルディスカッションには当機構研究開発部の坂口教授も参加し、活発な議論がなされました。

オンライン開催（Zoomウェビナー）・視聴無料（要申込）
労働政策フォーラム／大学等の質保証人材育成セミナー
**キャリア形成に寄与する
学び直し・リカレント教育**

社会の変化が加速する中で、キャリア形成における学び直し・リカレント教育の必要性は高まっています。本フォーラム・セミナーは、労働政策に関する研究成果を蓄積してきた独立行政法人労働政策研究・研修機構（JILPT）と、生涯学習推進に資する知識を蓄積している独立行政法人大学改革支援・学位授与機構（NIAD-QE）との連携事業を共有し、日本社会における学び直し・リカレント教育に役立つ教育および職業訓練のありようを探ることを目的として開催します。

第1部 研究報告
2024年3月16日（土）～19日（火） オンデマンド配信
期間中に事前に登録した動画（約70分）を視聴いただけます（視聴時間はおおよその目安です）。

趣旨説明 堀 有喜衣 労働政策研究・研修機構 統括研究員
研究報告 AIと共に働くための学び直しとは？
森山 智彦 労働政策研究・研修機構 研究員
産業人材ニーズと大学教育内容の関係の見える化の試み
宮本 岩男 中小企業庁 総務課長

第2部 事例紹介・パネルディスカッション
2024年3月19日（火） 13:50～16:15 ライブ配信

事例紹介 職業訓練の実践の取組
寺床 真悟 高齢・障害・求職者雇用支援機構 求職者支援訓練部 職業訓練課課長補佐
リカレント教育の大学における実践の取組
小原 正之 東京理科大学 経営企画部 次長
治多 伸介 愛媛大学大学院 農学研究科長／地域専門人材育成・リカレント教育支援センター長

パネルディスカッション
パネリスト：事例紹介者3名、宮本岩男氏
コーディネーター：堀有喜衣 統括研究員

主催：独立行政法人労働政策研究・研修機構（JILPT）
独立行政法人大学改革支援・学位授与機構（NIAD-QE）
【お問い合わせ】労働政策フォーラム事務局 <https://www.jil.go.jp/rc/forum> www.jil.go.jp/evant/

【概要】

- ▶ 実施日：第1部（オンデマンド配信）令和6年3月16日（土）～19日（火）
第2部（ライブ配信）令和6年3月19日（火）13:50～16:15
- ▶ 開催方式：オンライン開催（Zoomウェビナー）
- ▶ 参加者：515人（以下、各部別延べ数 第1部 451人、第2部 312人）
- ▶ プログラム：

第1部 研究報告

- ① 趣旨説明 堀 有喜衣：労働政策研究・研修機構 統括研究員
- ② 研究報告「AIと共に働くための学び直しとは?」
森山 智彦：労働政策研究・研修機構 研究員
- ③ 研究報告「産業人材ニーズと大学教育内容の関係の見える化の試み」
宮本 岩男：中小企業庁 総務課長

第2部 事例紹介・パネルディスカッション

- ① 事例紹介「職業訓練の実践の取組」
寺床 真悟：高齢・障害・求職者雇用支援機構 求職者支援訓練部 職業訓練課課長補佐
- ② 事例紹介「リカレント教育の大学における実践の取組」
小原 正之：東京理科大学 経営企画部 次長
治多 伸介：愛媛大学 大学院農学研究科長／地域専門人材育成・リカレント教育支援センター長
- ③ パネルディスカッション

学位授与事業

○ 20 人に博士の学位を授与 ー大学院博士課程相当の課程修了者ー

令和5年9月に防衛医科大学校医学教育部医学研究科を修了した博士の学位授与申請者に対して、医学・薬学専門委員会において、論文審査及び口頭試問が行われました。

この審査結果に基づき、令和6年2月19日（月）開催の学位審査会において最終審査を行った結果、20人に対して学位を授与することを決定しました。

＜博士の学位取得者数＞

認定課程名	専攻分野	取得者数（人）
防衛医科大学校医学教育部医学研究科	医学	20

○ 991 人に学士の学位を授与 ー学部相当の課程修了者ー

大学の学部に対応する教育を行う課程として認定した課程の令和6年3月修了者から学士の学位授与の申請があり、学位審査会における審査の結果、991 人の申請者に学士の学位を授与することを決定しました。

<学士の学位授与申請者数及び取得者数>

認定課程名	専攻分野	申請者数及び取得者数(人)
防衛大学校本科	理学	33
	工学	276
	社会科学	66
	人文科学	26
	計	401
防衛医科大学校医学教育部医学科	医学	66
防衛医科大学校医学教育部看護学科	看護学	106
水産大学校本科	水産学	188
海上保安大学校本科	海上保安	42
気象大学校大学部	理学	11
国立看護大学校看護学部看護学科	看護学	86
職業能力開発総合大学校総合課程	生産技術	91
合 計		991

○ 18人に修士の学位を授与 —大学院修士課程相当の課程修了見込者—

令和6年3月に防衛大学校理工学研究科前期課程、同校総合安全保障研究科前期課程、水産大学校水産学研究科、国立看護大学校研究課程部看護学研究科前期課程を修了する見込みの修士の学位授与申請者等に対して、理学、工学・芸術工学、社会科学、水産学及び看護学・保健衛生学・鍼灸学 の各専門委員会において、論文審査及び口頭試問が行われました。

この審査結果に基づき、学位審査会において最終審査を行った結果、18人に対して学位を授与することを決定しました。

<修士の学位取得者数>

認定課程名	専攻分野	取得者数(人)
防衛大学校理工学研究科前期課程	理 学	2
	工 学	5
防衛大学校総合安全保障研究科前期課程	安 全 保 障 学	9
水産大学校水産学研究科	水 産 学	1
国立看護大学校 研究課程部看護学研究科前期課程	看 護 学	1
合 計		18

○ 3人に博士の学位を授与 —大学院博士課程相当の課程修了見込者—

令和6年3月に防衛大学校理工学研究科後期課程を修了する見込みの博士の学位授与申請者に対して、工学・芸術工学専門委員会において、論文審査及び口頭試問が行われました。

この審査結果に基づき、学位審査会において最終審査を行った結果、3人に対して学位を授与することを決定しました。

<博士の学位取得者数>

認定課程名	専攻分野	取得者数(人)
防衛大学校理工学研究科後期課程	工 学	3
合 計		3

調査研究

○ 研究開発部教員紹介

森 利枝 教授・高等教育資格承認情報センター長



今日の小平では強い風と雨が、満開になったばかりの桜を散らしています。教員紹介の順番が回ってきました。昔のことから書き始めようと思います。

1995年というのは平成7年のことですが、在学していた博士課程の指導教員のところに、創立間もない学位授与機構の教授でいらした館昭先生が助手を探しにいらっしやっただのがわたしと機構の出会いでした。当時の機構は東工大のすすかけ台キャンパスに間借りしており、わたしは初職の緊張で毎朝3時半に目が覚めてその後一睡もできずに出勤するという、今思えば別人のような小心ぶりで東急田園都市線の西側のほぼ終点に通う生活を始めました。当時もちろん「機構ニュース」は（紙だけで）存在し、新任の教員は自己紹介の記事を担当することになっていたのですが、そのころの内部の方針で助手はその限りにあらずとされていたため、わたしにはその機会はありませんでした。爾来、助教授、准教授、教授と肩書きを変えつつ近年では高等教育資格承認情報センターのお役目も拝命しつつ、29年間潜伏を続けてまいりました。このたび初めてご挨拶させていただきます。はじめまして。

ときに、この欄をお読みの皆さまは熟れ鮓（なれずし）をごぞんじでしょう。魚と米を何か月も発酵させて作る鮓で、独特の香りを持ちます。滋賀の鮓ずしが最も有名なところでしょうか。炊いた米にお

酢を混ぜた酢飯を握るいわゆるお鮓はこのなれずしを短時間で作る調理法であり、したがって早鮓とも呼ばれるわけです。わたしの出身地である三重県の山間の集落には、なれずしを作る伝統がありました。そして、近隣の、例えば小学校の校区を同じくするような本当に近所の集落にはその習慣は全くありません。コノシロと呼ばれるコハダの親分のような青魚と米と塩を5か月ほど樽に漬けて作るなれずしは骨まで柔らかくなり、言葉を選べば発酵食品特有の、駅弁には向かない強い酸味と風味が生まれます。かつて地元のおじいさんおばあさんは、隣の村のものには食べられない、と半ば誇らしげに話していました。このなれずしの習慣がなぜこの集落にあるのか、というよりもむしろ、この習慣はなぜ近隣のどこの集落にもないのか。小学校の担任の先生は中国でネズミのなれずしを見たというではないか、聞けばアザラシに海鳥を詰めて発酵させたキビヤックというものを、イヌイットの人々は作っているというではないか。魚でしか作れないというわけでもないなら材料は等しく手に入るのに、なぜなれずしの習慣は地図上の点でしか見られず面にならないのか。この不思議な感じから、文化人類学というものに興味を持ち、考古学専修のある文学部に進んだのですが、出てきた口は文学研究科の教育学専攻でした。Life happens.

そのようなわけでなれずしを遠く離れて、まだできて4年目の機構に加えていただいてから長い年月が経っているのですが、設立当時からの、大学以外に学士の学位が取得できるルートを作ることにより「生涯学習体系への移行」を実現するという大きな目標の達成にはいまだ道半ばであると感じています。

しかしそれと同時に、人生が意外な方向に進んだり、人生を別の方向に進ませたいと思ったりというときに人々のお手伝いができるセイフティ・ネットのような機構の学位授与制度の意義は、常に新たな環境に対応するためにじんわり発酵することもないけれど、同時に騒ぐこともないとも思っています。

さて地元のなれずしの習慣は、ご多分に漏れず高齢化その他の理由で数年前に途絶えてしまいました。わたしが惜しいと思っている数少ないものごとの一つがこの習慣です。いっぽう近頃のわたしはオープンでパンを焼くことを覚え、寒い夜など生地を捏ねる手にイースト菌の暖かさを感じては発酵の力を実感しているところです。

もり りえ 修士（文学）（早稲田大学）

平成 7年 4月から 本機構助手

平成 12年 2月から 助教授

平成 19年 4月から 准教授

平成 28年 1月から 教授

令和 4年 4月から 教授・高等教育資格
承認情報センター長

主要行事日程

○ Schedule

4月

日	行事名	担当課
18日	令和6年度学位審査会専門委員協議会	学位審査課
24日	令和6年度認証評価機関連絡協議会評価担当職員研修	評価企画課

5月

日	行事名	担当課
17日	学位審査会（令和6年度第1回）	学位審査課
22日	令和6年度 大学・高専機能強化支援事業選定委員会（第1回）	事業推進課

6月

日	行事名	担当課
9日	令和6年度4月期学位授与試験（小論文）（東京地区、大阪地区）	学位審査課
9日	令和6年度4月期学位授与試験（面接）（東京地区）	学位審査課



独立行政法人

大学改革支援・学位授与機構

National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

